

目次

1 本事業の概要

- 1-1 本事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1-2 本事業の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 1-3 本事業の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 1-4 本事業の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 1-4-1 3機関における成果
 - 1-4-2 お茶の水女子大学における成果
 - 1-4-3 芝浦工業大学における成果
 - 1-4-4 物質・材料研究機構における成果

2 工学系女性研究者数の増加を目指した取組

- 2-1 女子大学生向け工学系研究の紹介・・・・・・・・・・ 35
- 2-2 工学系女性研究者のネットワークの構築・・・・・・・・ 40
- 2-3 女子中高生、女子大学生（大学院生を含む）のための連携企業への訪問・41
- 2-4 研究職への進路選択を促すインターンシップの実施・・・・・・・・ 50
- 2-5 女子中高生向け科学への誘いセミナーの実施・・・・・・・・ 56
- 2-6 生活工学系共同専攻の設置・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
- 2-7 ロールモデル集の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

3 女性研究者の上位職への登用を目指した取組

- 3-1 連携大学院方式の導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
- 3-2 上位職女性への支援員配置・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
- 3-3 女性上位職（准教授相当以上）のみによる交流会・・・・・・・・ 66
- 3-4 男性上位職者を交えた交流会・・・・・・・・・・・・・・ 66
- 3-5 上位職女性のためのスキルアップ講習・・・・・・・・ 68
 - 3-5-1 組織マネジメント講習
 - 3-5-2 エグゼクティブ・ファシリテーション講習
 - 3-5-3 エグゼクティブ・コーチング講習

4 研究力及び研究者の質向上を目指した取組

- 4-1 教員力強化プログラムにおける研究力・運営力の養成・強化・・・・・・・・ 72
 - 4-1-1 科学英語ライティング講習、科学英語プレゼンテーション講習
 - 4-1-2 国際シンポジウム・研究集会を企画する若手女性の支援
 - 4-1-3 競争的資金獲得セミナー、コンプライアンス研修

4-1-4	研究交流会	
4-2	教員力強化プログラムにおける教育力の養成・強化	86
4-2-1	指導力・カウンセリング理論講義	
4-2-2	コーチング研修	
4-3	教員力強化プログラムを推進する取組	91
4-3-1	メンター制度の仕組みや方法の共有	

5 雇用環境整備や支援活動の普及を目指した取組

5-1	女性研究者支援関連コーディネーター向け研修会	93
5-2	お茶大インデックスによる雇用環境の調査分析	93
5-3	妊娠、育児、介護、看護中における人的支援	96
5-4	シンポジウム	103
5-5	ワークショップ	109
5-6	本事業実施組織の交流会	111

6 本事業の評価と展望

6-1	事業実施機関による評価	114
6-2	事業実施機関外部者による評価	125
6-3	平成 29 年度以降の展望	140

※表記に関する備考：研究者等の所属、役職等は、イベント開催時点での情報になります。

お茶大：お茶の水女子大学、芝浦工大：芝浦工業大学、NIMS：物質・材料研究機構

4 研究力および研究者の質向上を目指した取組

4-1 教員力強化プログラムにおける研究力・運営力の養成・強化

4-1-1 科学英語ライティングセミナー、科学英語プレゼンテーションセミナー

【趣旨】

専門英語のライティングやプレゼンテーションのトレーニングを支援するための少人数制プログラムについて、サイエンスのバックグラウンドを持つ外部講師に依頼し、集中講義を開催する。

(4-1-1 表 1) 「科学英語ライティングセミナー、科学英語プレゼンテーションセミナー」講義内容

	実施日 開催場所	セミナー 名	講師・講義内容	参加者
1.	2015/10/15 (1日目) 物質・材料 研究機構	科学英語 論文ライ ティングセ ミナー	Mary Nishikawa 氏(カクタス・コミュニケーショ ンズ株式会社 講師) 「査読に合格し、検索され、引用される英語 論文」	45名 (本事業関係は 芝浦工大 1名)
	2015/10/22 (2日目) 物質・材料 研究機構	科学英語 論文ライ ティングセ ミナー	Medinda Hull 氏() 「分かりやすく読みやすい科学英語論文」	51名 (本事業関係は 芝浦工大 4名)
2.	2015/12/19 芝浦工業 大学	科学英語 プレゼン テーション セミナー	川合ゆみ子氏(日本工業英語協会 専任講 師) 「効果的に伝える英語プレゼンテーションの 基礎知識とスライド作り」 「効果的に伝える英語プレゼンテーションと 質疑応答のコツ」	お茶大 11名 芝浦工大 64名 NIMS 2名
3.	2016/6/10 お茶の水 女子大学	科学英語 プレゼン テーション セミナー	川合ゆみ子氏() 第1部「英語で効果的に伝える口頭発表の 基礎知識」 第2部「英語で効果的に伝えるスライド作りと 質疑応答」	第1部 お茶大 26名 芝浦工大 1名 第2部 お茶大 24名
4.	2016/10/26 物質・材料 研究機構	科学英語 論文ライ ティングセ ミナー	興野登氏(日本工業英語協会 理事・専任 講師) 「How to Write a Scientific Research Paper in English」	72名 (本事業関係は お茶大 4名)
5.	2017/2/16 芝浦工業 大学	科学英語 論文セミ ナー	興野登氏() 第1部「科学英語論文作成の原則、英文法 とルール」 第2部「句読法、数値・数式表現とパラグラ	49名 (本事業関係は お茶大 10名、 芝浦工大 26名)

			フ」 第 3 部「英語論文ライティングの慣用表現に ついて」	
--	--	--	--------------------------------------	--

【内容】

1. 科学英語論文ライティングセミナー

2015 年 10 月 15 日のセミナーでは講師の Mary Nishikawa 氏が「査読に合格し、検索され、引用される英語論文」の書き方を英語で解説した。「序文、方法、結果、および議論」(Introduction, Method, Result, and Discussion. 通称 IMRAD)のフォーマットを参加者に紹介した。

2015 年 10 月 22 日のセミナーでは講師の Medinda Hull 氏が「分かりやすく読みやすい科学英語論文」の書き方を日本語で解説した。英語論文のスタイルとフォーマット、構成、日本人研究者が陥りやすい間違いを具体的な事例を挙げながら説明した。

2 日間で女子学生・女性研究者らが 100 名近く参加した。参加者からは「具体的かつ実践的役に立った」「ライティングだけでなくプレゼンテーションのセミナーも開催してほしい」という感想がきかれた。



(4-1-1 図 1) 「科学英語論文ライティングセミナー」(2015/10/15, 22)チラシ

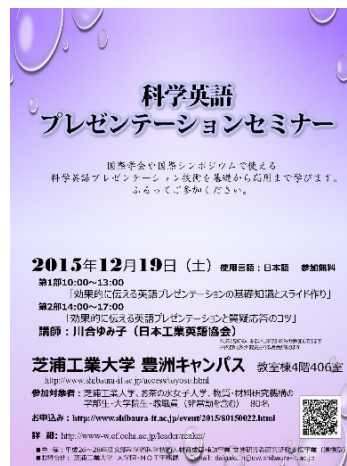


(4-1-1 図 2) セミナーの様子

2. 科学英語プレゼンテーションセミナー

第1部「効果的に伝える英語プレゼンテーションの基礎知識とスライド作り」は、テキストに沿って、初めて英語によるプレゼンテーションを行う研究者にも分かり易く、具体的な内容であった。

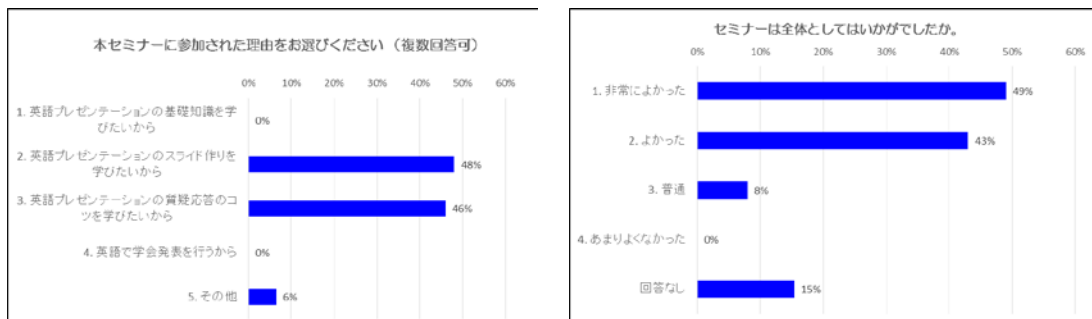
第2部「効果的に伝える英語プレゼンテーションと質疑応答のコツ」は、テキストに沿って、基本的な対応の方法、定型的な文例等の実践的な内容であった。



(4-1-1 図3) 「科学英語プレゼンテーションセミナー」(2015/12/19) チラシ



(4-1-1 図4) セミナーの様子



(4-1-1 図5) 「科学英語プレゼンテーションセミナー」アンケート結果

3. 科学英語プレゼンテーションセミナー

理系分野における研究者の国際的活躍を推進するために科学英語プレゼンテーションセミナー

を2部構成で開催した。教員・学生など延べ51人の参加があった。第1部、第2部のポイントを以下に紹介する。

第1部 「英語で効果的に伝える口頭発表の基礎知識」

◆英語プレゼンテーションのコツ

- ・結論を先に述べる
- ・否定形ではなく肯定形を使う
- ・図は左上から右下に向けて説明する
- ・人称代名詞や簡明な動詞・動名詞を多用する
- ・受動態ではなく能動態を使う

◆発音のコツ

- ・アクセントを強く長く発音する
- ・無い母音を発音しないよう注意する
- ・間を取りながら感情を込めてゆっくり喋る

◆構成のコツ

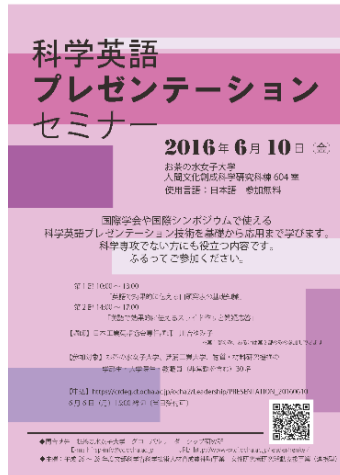
- ・序論・本論・結論ではそれぞれ未来形・現在形・過去形を使う
- ・難解な専門用語は聴衆のために簡潔に説明する
- ・聴衆にとってのメリットを伝える
- ・時間内に終わるよう練習する
- ・アイコンタクトを取りながらジェスチャーを使う

第2部 「英語で効果的に伝えるスライド作りと質疑応答」

◆英語スライドづくりのコツ

- ・結論を最初に示す
- ・スライド1枚につきメッセージを1つだけ書く
- ・スライドではなく聴衆に向かって話す
- ・スライドに書いたことはすべて口頭でも説明する
- ・箇条書きにして図を入れる
- ・文章はできるだけ短くする
- ・多様な句読点を効果的に使う
- ・冠詞に注意する
- ・度量衡に注意する
- ・大文字・小文字の区別に注意する
- ・図表も口頭で詳しく説明する

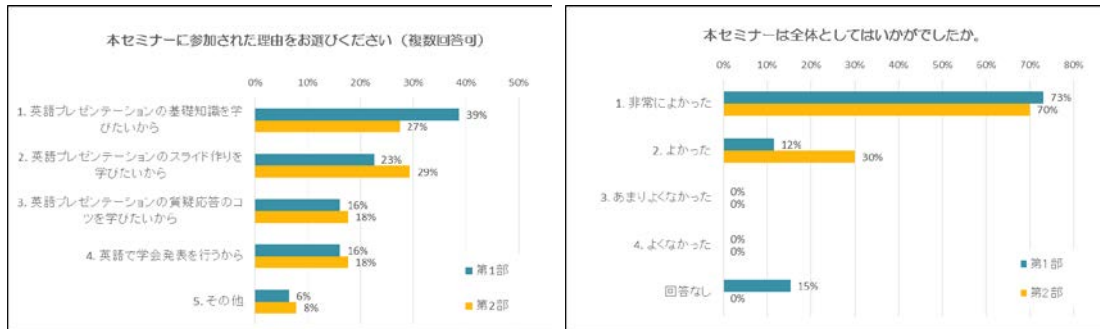
参加者たちからは大変好評で、「日本語で基礎から学べて良かった」「実践的で良かった」「定型文を学べて助かった」「また開催してほしい」「英語ライティングや英語ポスターのセミナーも開催してほしい」という感想や希望が多数寄せられた。



(4-1-1 図 6) 「科学英語プレゼンテーションセミナー」(2016/06/10) チラシ



(4-1-1 図 7) セミナーの様子



(4-1-1 図 8) 「科学英語プレゼンテーションセミナー」アンケート結果

4. 科学英語論文ライティングセミナー

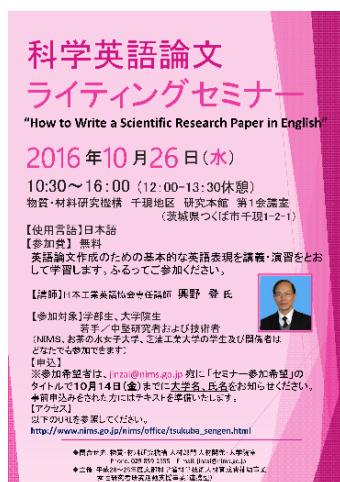
理系分野における研究者の国際的活躍を推進するために科学英語論文ライティングセミナーを2部構成で開催した。物質・材料研究機構連係大学院、お茶の水女子大学の学生、計72名が参加した。

第1部では、科学英語論文作成において求められる書き方や、注意事項などについて教えていただいた。

第2部では、パラグラフの基本構成についての具体例や英語論文によく使用される慣用表現などを紹介され、実際の科学英語論文の添削例を見ながら改善のポイントが解説された。講義後の質問

コーナーでは、講義内容やテキストに関する質問だけでなく受講者自身の論文等に関する英語表現等について相談する受講者が多数いた。

参加者たちからは、「実際の修正例が豊富で大変勉強になった」「是非また参加したい」などの感想が多く寄せられ、満足度の高いセミナーとなった。



(4-1-1 図9) 「科学英語論文ライティングセミナー」(2016/10/26) チラシ



(4-1-1 図10) セミナーの様子

5. 科学英語論文セミナー

研究成果を正確・明瞭・簡潔に伝える科学英語論文を書く力を研くことを趣旨とした科学英語論文ライティングセミナーを開催した。学生、大学教員、研究者等 49 名が参加した。セミナーは芝浦工業大学守田優副学長の開会挨拶で始まり、3 部で構成された。

第 1 部: 科学英語論文作成の原則、英文法とルール、第 2 部: 句読法、数値・数式表現とパラグラフ、第 3 部: 英語論文ライティングの慣用表現についての重要事項が凝縮された講義の後、実際の科学英語論文が添削解説された。添削では大学院生が書いた原文が添削によって精練された読みやすい英文に変わった。参加者アンケートでセミナーに対し回答者の 38%が「非常によかった」、59%が「よかった」と回答し、自由記述には「冠詞の説明、一文をしっかりと書く練習をするという教え方はとても良かった。説明の後に練習問題を解いてみるなどの実習があったらもっといいと思う」等、積極的な感想・意見が記された。

科学英語 論文セミナー

英語論文作成に必要な英語表現を講義・演習をとおして学習します。
また、実際の論文添削例を通して、どうすればより明晰な科学論文になるかを実践的に体得します。

日時
2017年2月16日(木)
13時～17時30分
(途中15分休憩、講義後30分の個別質問時間含む)

参加対象者

- 1) 芝浦工業大学、お茶の水女子大学、物質・材料研究機構の教職員・研究者・大学院生・学部生
- 2) 一般の方でも参加いただけますが、上記の教職員・学生の申し込みが優先となります
- 3) 英語論文を執筆したことのある方、また今後その予定がある方に適したセミナーです

お申し込み先
<https://ts223.formasp.jp/h777/form8/>

申し込み期間
第1次申し込み期間：2017年1月25日(水)まで
芝浦工業大学、お茶の水女子大学、物質・材料研究機構の教職員・大学院生・学部生対象
第2次申し込み期間：2017年1月26日(木)以降
参加対象外に該当する方のみ

講師
興野 豊 氏
公益社団法人、日本工業振興協会 専任講師
上級英検1級取得者／博士(工学)

参加費：無料

定員：80名
(先着順)

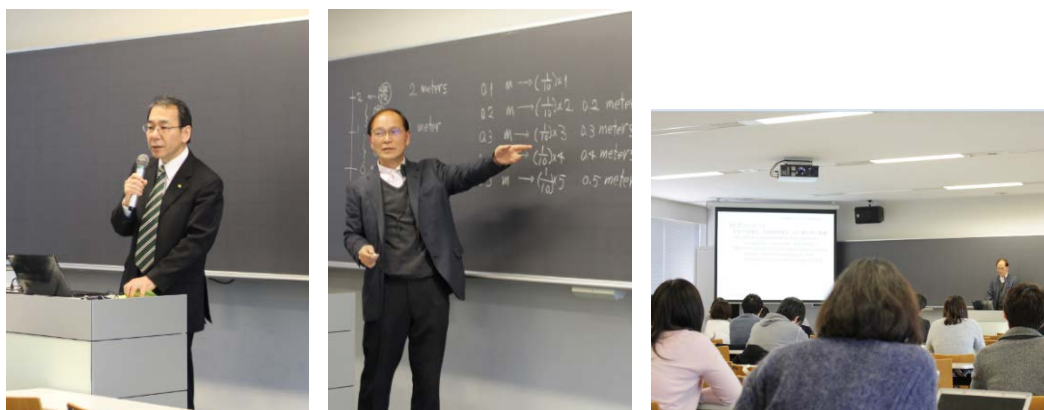
場所
芝浦工業大学
豊洲キャンパス
教室棟3階302室

主催
平成26～28年度
文科科学省 科学技術・人材育成振興助成
「女性研究者研究奨励支援事業(奨励79)」

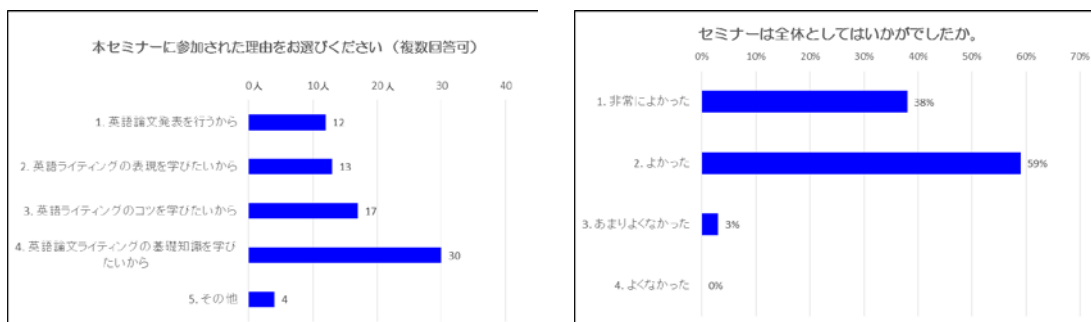
共催
芝浦工業大学
理工学教科共同研究拠点

お問い合わせ先
芝浦工業大学 大学情報課
E-mail: kikaku@gowsh.buira-it.ac.jp

(4-1-1 図 11) 「科学英語論文セミナー」(2017/2/16) チラシ



(4-1-1 図 12) セミナーの様子



(4-1-1 図 13) 「科学英語論文セミナー」のアンケート結果

4-1-2 国際シンポジウム・研究集会を企画する若手女性の支援

【趣旨】

女性研究者の研究力、運営力、教員力を養成し、スキルアップや、活動の範囲を拡げる「教員力強化プログラム」の代表機関であるお茶の水女子大学で実施する。若手女性研究者に研究集会やシンポジウムの企画と実施を経験させるための人選を行うために、グローバルリーダーシップ研究所特別研究員(呼称:みがかずば研究員)を対象に学内公募を実施する。候補者を選出し、費用面での支援を行う。

(4-1-2 表 1) 「若手女性研究者支援」実施内容

実施日 開催場所	企画者名(所属) タイトル
2017/1/28 お茶の水女子大学 大学本館 135 室	川上裕子(お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所特別研究員) 「農業協同組合による保健福祉事業の歴史～地域住民の生命と生活はいかに守られてきたか～」

【企画・主催した若手女性研究者からの報告】

1. 目的・意義

本シンポジウムは、戦前戦後を通じて地域住民の保健・医療・福祉活動を一貫して担ってきた農業協同組合の実践に焦点を当て、保健福祉事業の展開と今日的意義を検討することを目的とする。社会保障制度のあり方が議論されている昨今、農業協同組合の活動の歴史の変遷を学ぶことは、社会保障全体の提供体制を考える上で有用な知見を得ることが期待できる。

2. プログラム

- 14:00 - 14:05 開会挨拶(趣旨説明)
川上裕子[お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所
特別研究員]
- 14:05 - 14:45 農協厚生事業の歴史と今日的課題
石田正昭[龍谷大学農学部教授・日本協同組合学会会長]
- 14:45 - 15:25 農協による子育て支援の変遷と今日的ニーズ
福田いずみ[一般社団法人JA共済総合研究所調査研究部研究員]
- 15:25 - 15:35 休憩
- 15:35 - 16:15 福井市におけるJA女性組織の育成
角野淑枝[JA福井市殿下ふれあい支店支店長]
- 16:15 - 16:20 休憩
- 16:20 - 17:00 ディスカッション
- 17:00 閉会挨拶 川上裕子

3. 参加者数

16名(大学・研究機関の研究者9名、大学院生2名、農業協同組合関係者3名、その他2名)

4. 終了後の参加者アンケート

1) 参加の動機

- ・農業協同組合(JA)の活動や役割に関する興味関心(人口減少の著しい農村におけるJAの役割を歴史的視点を踏まえて知りたい／具体的事例を聞くことができる)
- ・農村における社会福祉、協同組合活動に関する関心(農業・土地・共同体の関係／社会資本としての地域共同体、コミュニティのあり方や重要性／農村社会事業と協同組合の関係)
- ・JAに関する研究の必要性(合併の進行で資料が散逸し、活動実態が見えなくなることを危惧／研究者と実務者の問題意識の共有によって直面する課題を解決するヒントが得られるのではないか)

2) 感想・意見

- ・JAによる保健福祉事業の実際とその独自性・自律性(具体的取り組み、長年の実務経験に基づいた報告が非常に興味深かった／JAの立ち位置から地域のニーズをどのように捉えるかという点に示唆を得た／ニーズをいかに把握するかは組織のリーダーの存在が大きいことを再認識／JAの自律性を強く感じた)
- ・歴史研究の必要性(活動の足跡を伝えることの重要性を改めて感じた／地道な事例収集を積み重ねた報告が興味深かった)

5. 本支援により得られた成果・効果

1) 農業協同組合による保健福祉事業の史的展開からみた今日的意義

- ・JAが医療、保健、子育て、高齢者介護、そして生活全般にわたって、組合員に限定せず広くその地域に暮らす人々に行ってきた事業を生活問題の質的变化に沿って理解することができた。
- ・地域のニーズや既存の資源の活用、当事者性、協同の精神という観点から議論を深めることで、JAが今後も地域社会における保健福祉事業の提供主体の一つとして大いに機能を発揮できることを確認した。
- ・他分野の研究者との意見交換の機会となり、有意義な議論ができた。

2) 研究者・実践者とのネットワークづくり

- ・本シンポジウムの企画・実施過程で、研究者や実践者との多様なネットワークを構築することができた。
- ・現在の研究テーマである「戦後日本の農業協同組合による保健・医療・福祉活動の歴史社会学的研究」(平成28～30年度科学研究費補助金 基盤研究C)に関する有用な知見を得ることができ、さらに、史資料の閲覧やインタビュー調査対象者の選定に関する仲介を得て、円滑な実施が可能となった。結果、当初の計画以上に研究活動が進展した。

3) その他

- ・参加者16名の小規模なシンポジウムであったが、農業専門新聞社記者の傍聴があり、広く一般の農業関係者にも取り組みを広めることができたと思われる(『日本農業新聞』2017年1月29

日、3面)。



(4-1-2 図 1) 「若手女性研究者支援」チラシ

4-1-3 競争的資金獲得セミナー、コンプライアンス研修

【趣旨】

科研費など外部資金申請書類の作成方法などを学ぶ「競争的資金獲得セミナー」と、研究倫理に関する「コンプライアンス研修」を実施する。なお、本研修は専門知識を有する学外講師に委託してお茶の水女子大学にて開催し、芝浦工業大学、物質・材料研究機構からも参加者を募る。

(4-1-3 表 1) 「競争的資金獲得セミナー、コンプライアンス研修」講義内容

	実施日 開催場所	セミナー名	講師・講義内容	参加者
1.	2015/9/30 お茶の水女子大学	競争的資金 獲得セミナー	・鈴木慰人氏(文部科学省学術研究助成課 課長補佐)「『科研費』の最近の動向について」 ・古瀬奈津子(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授/日本学術振興会学術システム研究センター 主任研究員)「『科研費』の応募に向けて」	お茶大 54名 芝浦工大 1名 NIMS 3名
2.	2016/4/30 お茶の水女子大学	コンプライア ンス研修	・馬場幸栄(お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)「研究倫理の概念と具体的な相談先について」	お茶大 50名 芝浦工大 0名 NIMS 0名

		<ul style="list-style-type: none"> ・本山功幸氏 (科学技術振興機構監査・法務部研究公正課 主任調査員)「研究倫理に違反した研究者の具体的事例」 ・高柳元雄氏 (科学技術振興機構監査・法務部研究公正課 課長代理)「『The Lab』を見て」 	
--	--	---	--

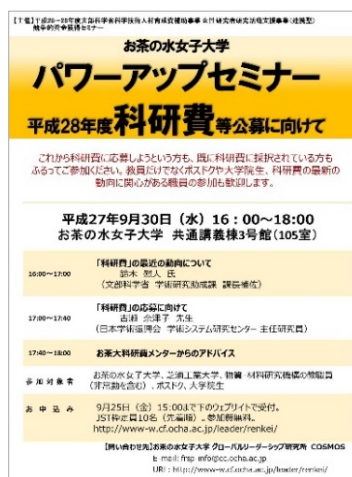
【内容】

1. 競争的資金獲得セミナー

文部科学省 鈴木慰人氏より「『科研費』の最近の動向について」というテーマでご講演いただきました。科研費は私立大学への配分額がやや右肩上がりなのに対して国立大学への配分額がわずかに下降気味であること、基金化や調整金などの導入によって以前より補助金を使い易くなったこと、国際共同研究を促進するための基金が設けられたことなどが説明された。

続いてお茶の水女子大学 古瀬奈津子氏が「『科研費』の応募に向けて」というテーマで講演を行った。研究種目ごとの採択率を示した他、お茶の水女子大学が新規採択率において 13 位であること、審査員は 2 年ごとに代わるので何度でも積極的に申請すべきであること等を参加者たちに説いた。

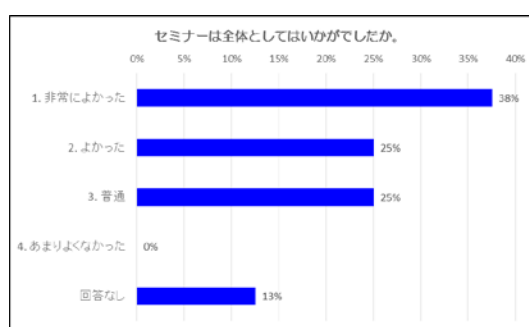
最後にお茶の水女子大学の科研費メンターたちから科研費申請者へのアドバイスが述べられた。申請書のタイトルをわかりやすく目立つものにし、文章だけでなく図も用いると良いとの意見が多かった。また、審査に落ちた場合にその理由を公開してもらおうと翌年より良い申請書が作成できる、という助言もあった。



(4-1-3 図 1) 「競争的資金獲得セミナー」チラシ



(4-1-3 図 2) セミナーの様子



(4-1-3 図 3) 「競争的資金獲得セミナー」アンケート結果

2. コンプライアンス研修

科学技術振興機構(JST)の職員をお招きしてコンプライアンス研修を開催した。

研究不正行為や不誠実な研究活動を防止するために、研究者が取り組むべきことについて関心のある教職員・学生など 50 名が参加した。

お茶の水女子大学 馬場幸栄氏が、研究者の活躍のためには、まず研究倫理について熟知していることが必要不可欠であると述べ、研究者行動規範、倫理指針、秘密情報管理、研究倫理審査、納品検収、不正告発、利益相反、安全保障輸出管理について、その概念と具体的な相談先について説明し、科学技術振興機構 本山功幸氏と高柳元雄氏が研究倫理に違反した研究者の具体的事例を複数取り上げながら、研究倫理違反のパターン分析や、違反者に対する処置などを説明された。

続いて、高柳氏が、研究倫理に関するインタラクティブ映像『The Lab』を上映しながら、「あなたならこの場面でどのような選択をしますか？」と参加者に問いかけ、その選択について解説をされた。参加者たちからは、「研究倫理について今まで知らないことばかりだった」「参加して良かった」「不安が少し解消された」などの感想が多数寄せられた。

主催：平成26～28年度文化科学技術人材育成費助成事業 女性研究者研究活動支援事業（講習型）

「The Lab」
上臈します

研究不正防止のために、研究者が
取組むべきことについて講習会を
開催します。研究開発に携わる
方々の参加をお待ちしております。

JST
による**研究倫理に
関する出前講習会**
責任ある研究活動をめざして

【講師】科学技術振興機構
総務部 研究公正室 職員(予定)

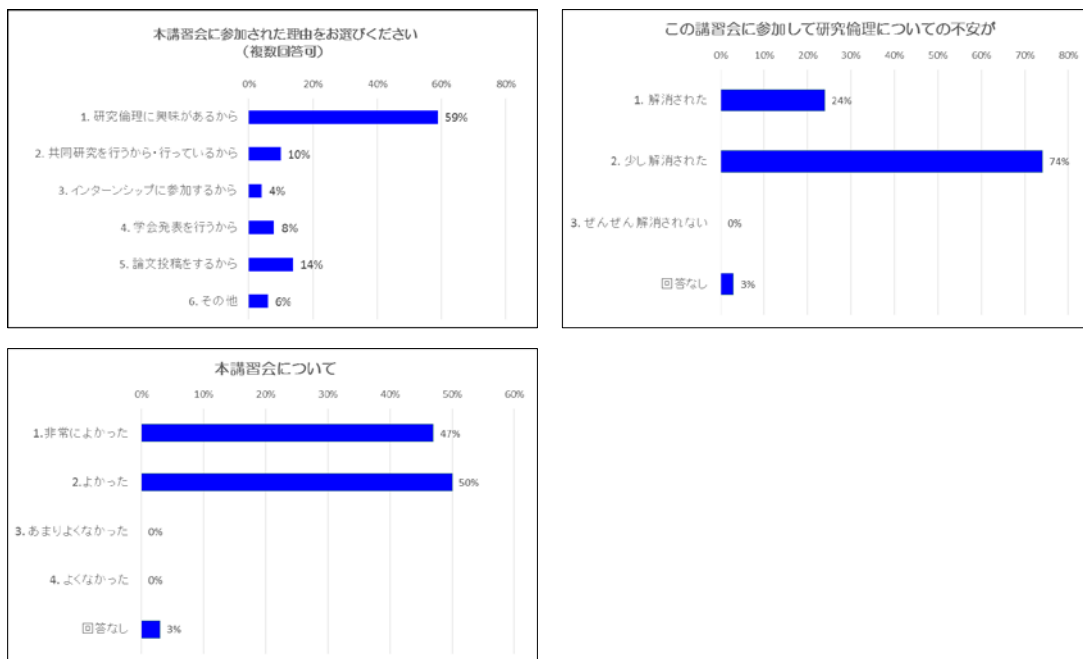
2016年4月27日(水) 15:00～16:30
お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科棟604室

【対象】お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構連携大学院の学部生、大学院生、
研究員、教職員（非営利に高）
【申込み】https://rdm.jp/ocha2/Leadership/KENKYURINRI_20160427/
当日受付可
【詳細】http://www.w.t.ocha.ac.jp/leader/renkei/kenkyurinri_20160427/
●問合せ：お茶の水女子大学 広報・マーケティング課 E-mail: isp-info@cc.ocha.ac.jp

(4-1-3 図 4) 「コンプライアンス研修」チラシ



(4-1-3 図 5) 研修の様子



(4-1-3 図 6) 「コンプライアンス研修」アンケート結果

4-1-4 研究交流会

【趣旨】

連携 3 機関における研究者、及び任期付若手研究者、大学院生、特別研究員(以上すべて女性)を対象に、研究交流と共同研究の機会を提供するための「研究交流会」を開催する。

(4-1-4 表 1) 「研究交流会」内容

実施日 開催場所	講師・発表内容	参加者
2016/2/24 お茶の水女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ・越阪部奈緒美(芝浦工業大学システム理工学部生命科学科教授)「食品因子と抗加齢」 ・野田夏子(芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科准教授)「柔らかい(はずの)ソフトウェアの更なる柔軟化」 	お茶大 20 名 芝浦工大 0 名 NIMS 1 名

【内容】

芝浦工業大学で活躍する工学系女性研究者をお招きし、研究交流会を開催し、約 20 名の教職員・学生が参加した。

芝浦工業大学 越阪部奈緒美氏が「食品因子と抗加齢」というタイトルで、自身の経歴と現在の研究内容についてお話しされた。明治製菓・薬品総合研究所に入社後、試験を受けて補助職から総合職へ異動したこと、同社の生物科学研究所でポリフェノールの研究を始めたこと、現在は大学教授としてお茶の水女子大学と共同研究をしながら、難吸収性のポリフェノールが人体に影響を与える仕組みの解明に挑戦していることをお話しされた。

次に、芝浦工業大学 野田夏子氏が「柔らかい(はずの)ソフトウェアの更なる柔軟化」というタイトルで経歴と研究内容を発表された。大学では数学を専攻していたが NEC 入社後にソフトウェアのオブジェクト指向分析設計に興味を持ってソフトウェア工学を志すようになったこと、急な変更にも対応できる柔軟なソフトウェアを作るために現在は大学でアスペクト指向ソフトウェア設計の研究を行っていることをご説明された。

参加者からの、企業での研究と大学での研究の違いについての質問に、越阪部氏は「企業では研究だけでなくあらゆる仕事をこなさなければならないので、様々なスキルが身につく。いっぽう大学は、研究に集中できるのが魅力」と回答された。

研究発表後、越阪部・野田両氏を囲んで自由に話をする交流会を開催。参加したお茶の水女子大学の院生からは、「仕事と家事・育児の両立はどのようにしているのですか?」「研究が上手くいかなくて落ち込んだときはどのように気分転換しますか?」など、多数の質問が出された。これに対してご自身の経験も交えて親身にアドバイスをして下さり、盛会となった。

研究交流会 参加者募集

2016年2月24日(水) 13:30~15:30
お茶の水女子大学
人間文化創成科学研究科棟604室

芝浦工業大学で活躍する工学系女性研究者をお招きし、最新の研究について
お話を伺い、交流会も開催します。共同研究、女性研究者のワークライフバランス、
進路などについても相談できます。ふるってご参加ください。

「食品因子と抗加齢」
越阪部 奈緒美 教授
芝浦工業大学 システム理工学部生命科学科

●メッセージ●
通常の経路に阻害されることなく、一歩一歩研究に足を進める
ことが将来の費方を作ると思っています。

「柔らかい(はずの)ソフトウェアの更なる柔軟化」
野田 夏子 准教授
芝浦工業大学 デザイン工学部デザイン工学科

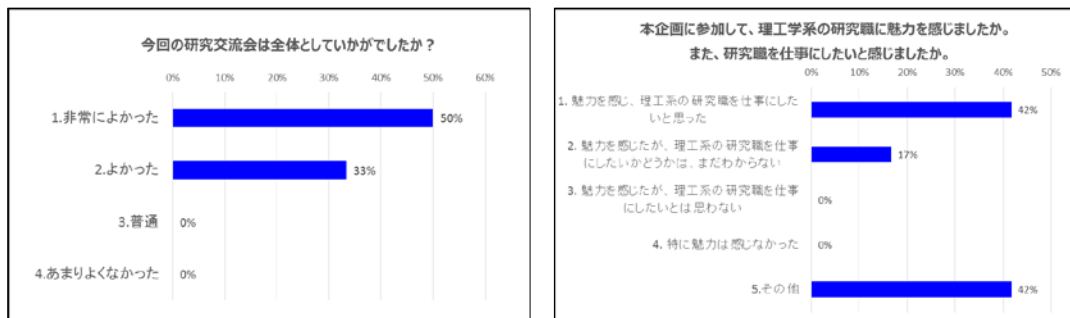
●メッセージ●
職人ものを作りたいばかり、製品の価値を採りたがる研究者の仕事は、
課題に陥りやすいものです。一緒に未来を創りたい方いませんか？

【会場】お茶の水女子大学 芝浦キャンパス 1993号棟(旧東大)604号室(4号館2階) (※お車の方は
学生「東大」の看板を)
【申込み】<http://www.f.u-tokyo.ac.jp/ocha2/j/index.php/604/NOVO/RCR/1993/604/24/>
【詳細】<http://www.f.u-tokyo.ac.jp/ocha2/j/index.php/604/NOVO/RCR/1993/604/24/>
●主催●お茶の水女子大学 工学系女性研究者会 人間文化創成科学研究科 工学系女性研究者会 芝浦キャンパス 1993号棟
●共催●お茶の水女子大学(山ノ根キャンパス) 理学部 1号館 101号室 E-mail: Eng-ocha@u-tokyo.ac.jp

(4-1-4 図1) 「研究交流会」チラシ



(4-1-4 図2) 研究発表(左)と交流会(右)の様子



(4-1-4 図3) 「研究交流会」アンケート結果

4-2 教員力強化プログラムにおける教育力の養成・強化

4-2-1 指導力・カウンセリング理論講義

【趣旨】

お茶の水女子大学には、教育学、心理学、社会学等を専門とする教員が在籍している。こうした本学のメリットを活かし、専門の教員による研修を行い、指導力やカウンセリング理論等の、教育力

強化に必要な基盤作りを行う。

(4-2-1 表 1) 「指導力・カウンセリング理論講義」講義内容

実施日 開催場所	講師・講義内容	参加者
2016/2/16 お茶の水女子大学	内田伸子氏(お茶の水女子大学名誉教授) 「悩みを抱えた学生にどのように接したらよいか～女性研究者を育てた心理学教員の経験からの提案～」	お茶大 15名 芝浦工大 2名 NIMS 1名

【内容】

お茶の水女子大学名誉教授の内田伸子先生をお招きして指導力・カウンセリング理論講義を開催した。女性研究者の抱える悩みとその克服について、また学生に対する教員の接し方について関心のある教員・事務職員・学生など約 20 名が参加した。内田伸子先生は表題のテーマについて 5 部構成でお話された。概要は以下の通り。

第 1 部「理工系の女子学生・女子院生の悩みはどこに？」では、悩みを 3 つの「ない」に整理され指摘された。

- (1) 将来が見えない(大学や研究所などの研究機関に就職できるか？そもそも博士論文が書けるか？)
- (2) ロールモデルは沢山いても、あんなふうになれる自信がない
- (3) 運よく大学や研究機関に就職できたとしてもライフイベント(子育て、介護など)に対処できる自信がない

第 2 部「大学院の設置の歴史を通して見えてきたこと」では、上記の悩みや不安を深めている要因について話された。大学院重点化政策により大学院生が急増する一方、企業や大学では博士修了者のポストが増えなかったこと、特に日本では企業における博士号取得者採用率が低いという現状があること、またライフキャリアデザインの指導について教員のあいだで共通認識が形成されていないという問題にも言及された。

第 3 部「女子院生を育てる教員の意識改革を！女子学生と女子院生へのエール」では、女性研究者は最もクリエイティブな時期に結婚、出産、子育て、介護、更年期障害が重なるという厳しい現実を女子学生に早期に自覚させる必要があることを主張された。そのような現実を示しながら、「修士課程・博士課程の過ごし方」についてオリエンテーションをしていたというご自身のご経験も紹介された。

第 4 部「しつけと学習効果」では、「褒める」「励ます」「広げる」を重視した「共有型しつけ」のほうが指示的・トップダウン的な「強制型しつけ」よりも教育指導に有効であることを多くのデータを用いて論じられた。

第 5 部「博士号取得と就職」では、就職問題への心構えとして論文を多数発表するべきであること、就職のチャンスがあれば女子学生は大学・企業にかかわらず「受けて立つ」気概が必要であることを強調された。

質疑応答では、「打たれ弱い学生にはどのように注意したらよいか？」という質問に対して、「本

人も自分のミスについて落ち込んでいるはずなので、その場では注意せず、少し時間を置いてから学生と対話するとよい」とアドバイスをされた。

参加者からは「内田先生の力強いご講演に非常に励まされました。学生支援に役立つヒントが多く伺えました」「教員志望者として、生徒に対してどう働きかけるべきか、大変多くを学ばせていただきました」など多くの感想が寄せられた。

このような感想で示されたように、中身の濃い、そして明日からの学生、院生の指導に大変参考になる示唆に富んだ講演会となった。

【本講演は経済産業省「人材育成推進事業」(平成26～27年度)と「女性活躍推進法」(平成27年度)の補助事業(産学連携)によるもので、参加費は無料です。】

悩みを抱えた学生に
どのように接したらよいか

～女性研究者を育てた心理学教員の経験からの提案～

講師 内田伸子氏 京の水女子大学准教授

開催日時 2016年2月16日(火) 13:30-15:00

開催場所 お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科棟604室

参加対象 お茶の水女子大学・芝浦工業大学・徳島・材料研究機構の教職員(非常勤を含む)、ホストウ、学部生、大学院生 定員30名 参加無料

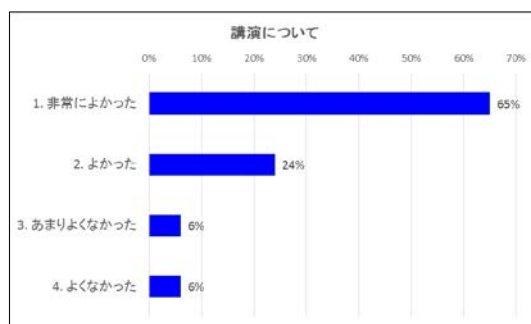
申し込み <https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/COUNSELLING20160216/>
2016年2月12日(金) 15:00締切

問い合わせ先 お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 COSMOS
E-mail: tag-01@cf.ocha.ac.jp
URL: <http://www-ws.cf.ocha.ac.jp/leader/renkei/>

(4-2-1 図1) 「指導力・カウンセリング理論講義」チラシ



(4-2-1 図2) 「指導力・カウンセリング理論講義」の様子



(4-2-1 図 3) 「指導力・カウンセリング理論講義」アンケート結果

4-2-2 コーチング研修

【趣旨】

上位職としてより良い判断をし、活動にポジティブな変化を起こすためのエグゼクティブコーチングを実施する。

実際のスキルを身につけるために、外部スタッフによるコーチング(自ら考え、自ら行動することを促す、能力や才能を引き出す手法)の研修を行う。コーチングでは、職階に応じたマネジメント手法・問題解決手法を学び、指導力のみならず、コミュニケーション能力の強化もはかる。

(4-2-2 表 1) 「コーチング研修」講義内容

実施日 開催場所	講師・講義内容	参加者
2015/9/25 お茶の水女子 大学	本田正人氏(らーのろじー株式会社) 「学生や部下のやる気を引き出すコミュニケーション術」	お茶大 27名 芝浦工大 6名 NIMS 2名

【内容】

コーチングに興味があり、自身のキャリアアップを目指す研究者、教員、組織の運営者、事務職員、大学院生など約 40 名が参加し、コーチング研修会を開催した。

当日はコーチングの専門家、本間正人氏をお招きし、教員・上司が学生・部下に対して命令を与える従来の「教育学」から脱却して、教師・上司がコーチとなって学生や部下の自発性・可能性を引き出す「学習学」の重要性をお話いただいた。

その後、参加者全員が初対面の人とペアを組み、自分について話したり相手についての話を聞いたりすることで、アクティブ・リスニングにおける三大要素「傾聴・質問・承認」の練習を行ったり、聞き手(教員・上司)が相手の成功体験を聞き出して話し手(学生・部下)に自信をつけさせる「ヒーローインタビュー」の練習を行った。

最後に、教員・上司が学生・部下の話聞く時間を設けることの重要性を話され、「すべての人がヒーローになる可能性をもっている。その可能性を引き出すのがコーチングだ」とまとめられた。

参加者からは「コーチングについて知識がなかったのでも勉強になった」「学生や子供に対して実践しようと思った」「あらゆる対人関係・シーンで応用できるスキルだと思った」「人生の中で勇気付けられるようなお話が聞けて嬉しかった、これからはがんばろうと思った」など多くの感想が寄せられた。

【中村正成氏（社会文化女子大学客員教授）の講演「教員力強化プログラム」の開催決定に伴って実施される「コーチング研修会」

学生や部下のやる気を引き出す コミュニケーション術

教員力強化プログラムの一環として
大人数の参加型研修会、TVニュース番組のアンカーとして活躍がある
本間正人氏をお招きして
「教職員の出発力向上」や「学生とのコミュニケーションの取り方」
に焦点をあてた「**コーチング研修会**」を開催します。
是非、ご参加ください。



本間正人氏経歴
 元NHKニュース番組「NHKニュースおはよう日本」のアンカー、司会者、
 取材員、現職（一般社団法人「日本コーチング協会」代表理事、元NHK
 放送文化基金「日本の学生と先生」プロジェクトのコーディネーター、
 「NHKニュース」の「NHK-Coach」の講師、NHKの「NHK」の
 編集者。

2015年9月25日（金）10:30-12:10（10:00開場）
お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 全学員用研究棟大講義室104

【参加費】 お茶の水女子大学、経済工業大学、物質・材料研究機構の教職員（非常勤を含む）、ホストウ、大学院生

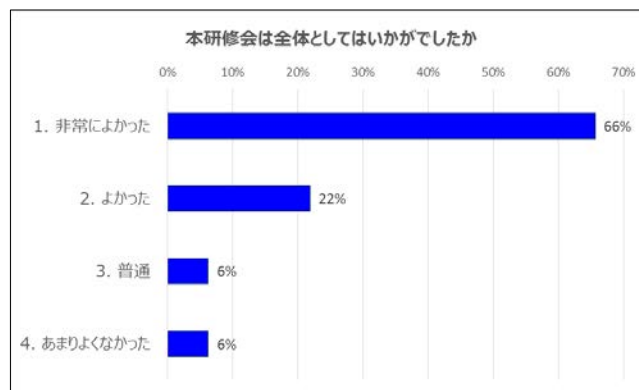
【お問い合わせ】 9月14日（月）15:00までのウェブサイト受付。
 定員20名（先着順）、参加費無料。
 詳細は以下のURLから小生まで、参加申込に際しては、先着順、無料。
<https://erc.gakushuin.ac.jp/erc92/Leadership/COACH/NG20150925>

お問い合わせ先 本間正人氏 2015-09-15（月）15:00まで
 Email: masahito.honma@ncc.gakushuin.ac.jp
 URL: <http://www.ncc.gakushuin.ac.jp/>

(4-2-2 図 1) 「コーチング研修」チラシ



(4-2-2 図 2) 「コーチング研修」の様子



(4-2-2 図 3) 「コーチング研修」アンケート結果

4-3 教員力強化プログラムを推進する取組

4-3-1 メンター制度の仕組みや方法の共有

【趣旨】

連携 3 機関がこれまでに実施してきたメンター制度の仕組みや方法について情報交換を行い、連携機関内でメンター制度の在り方を共有できる仕組みを作る。

【内容】

2014 年度中に連携機関担当者(コーディネーター)向け研修会を 3 回開催し、連携機関それぞれにおける女性研究者支援の取組内容について紹介を行った。メンター制度については芝浦工業大学の取組が好事例となった。芝浦工業大学では、女性研究者が研究・教育経験において先輩の研究者と対話し助言を受け、あるいはロールモデルを得ることを通じて、女性が少ない環境下、研究者・大学人としてより高い成長のための支援を目的とした「芝浦工業大学女性研究者メンター&アドバイスプログラム」を実施している。このプログラムで継続的にアドバイスを受けたメンティの満足度は高く、制度が有効に機能し、活用がなされていた。

各機関におけるメンター制度の在り方を共有するにあたり、お茶の水女子大学が学内教職員・学生の子育てネットワークの構築、及び悩みやその解決方法、子育てに係る情報を共有する場として年 4 回開催する「子育てサロン」を芝浦工業大学、物質・材料研究機構の教職員や学生に開放した。

お茶の水女子大学で実施する「子育てサロン」は、子どもの有無にかかわらず、昼食をとりながら「子育て」をテーマとして研究と子育てを両立している研究者(メンター)、職員、学生が気軽に懇談、相談できる場となっている。2010～2016 年度までに通算 26 回開催している。本事業では、2016 年 9 月 28 日(水)12:10～13:20 にお茶の水女子大学大学本館 113 室にて開催した第 25 回子育てサロンを連携機関に開放した(4-3-1 図 1)。参加者は 10 名で、子どもと一緒に参加した女性研究者もみられた。

参加者から様々な話題が上り、中でも「子どもの預け先」については、居住地域による差があること、子どもを預けられない場合に近所の方々や民生委員に依頼して乗り切る方法、さらには外国人が日本で子育てを行う場合の問題などについて意見交換がなされた。

また、「子育て」に関わる悩みは、子どもが小さいときだけではなく、大学生になっても様々な問題があることも話題となるなど、これまでに 1 機関で実施していた子育てサロンでは見られない意見や悩みなどもみられた。

参加者からは、「芝浦工大でも始めてみようと思いました。ケアミーティング、セクマイミーティングも。インフォーマルネットワークの大切さを思い知りました」「大変有意義な取組だと思いました。機構においても同様の試み(子育てサロン)を立ち上げてみたいと思います」「子育ての課題は、時代を越えて続いていると感じました」などの感想があった。

この「子育てサロン」への参加を通じて、芝浦工業大学、物質・材料研究機構では、同様の子育て支援制度の導入を検討することになった。また、このようなイベントを 1 機関だけで実施するのではなく、共同開催することにより、新たな意見や視点を得られることも明らかとなった。「子育てサロ

ン」は、1 対 1 (Peer to Peer) によるメンター制度よりも気軽に複数人から多面的な意見や情報を収集する場として活用が可能であることが確認できた。



(4-3-1 図 1) 第 25 回子育てサロンの様子